

第2回第五中学校区地元代表者協議会 会議録

1 日 時 令和4年12月20日（火）18時30分～19時50分

2 場 所 松川コミュニティセンター 研修室

3 出席者 （1）委員 16名

（2）事務局 教育指導部長 山口 玲子

教育総務課長 高橋 利明

学校教育課長 植木 修

学校教育課 適正規模適正配置推進主幹 森谷 純

学校教育課 適正規模適正配置推進室長 樋口 進一

学校教育課 主事 田村 美佐保

4 内 容

（1）開会

（2）あいさつ 佐藤会長

（3）協議

①会議録の承認について

②統合に向けての意見について

・統合のあり方、進め方について

・通学方法について

（4）第3回協議会会議の開催日程について

（5）閉会

（会 長）初めに「①会議録の承認について」事務局から説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

（会 長）以上の説明や会議録について、質問や意見はいかがか。

（委 員）前回の協議の中でこうあるべきでないのかということで話した事がある。それは五中学区には現在教育後援会があって、お金を各町内から出していることについてである。教育後援会があるのは五中と七中だと認識している。五中が一中に統合となった場合、引き続きその制度を継続するのかという話があったが、それについては統合する段階で一中と話をすべきではないのかと思っている。東部小学校区や一中学区には大きな町内がたくさんある。現在、一中には教育後援会が無いので、町内から教育後援会費は出していない。それを今後町内で負担する場合には、各町内の予算にかかわることでもあり、現実的には取り入れていくようなことはできないわけであり、統合となった後に、教育後援会等で話し合っ決めていくべきではないかということである。

（会 長）山上地区で言えば、3月末の段階で新しい年度の会費の一覧表を作り、町内の地区委員に渡している。その中に五中教育後援会という項目が入っている。来年度の第五中学校教育後援会費がいくらかということや、来年、再来年に向けて徴収

金額の案内も出てくる。松川地区も同様だと思うが、いかがか。

(委員) それに関しては松川地区連合会に諮らなければならないが、統合になってからというよりは、ある程度、将来というか今後のことを考えて決めていかないといけないと思う。我々だけでは判断できかねる。

(会長) 五中教育後援会の組織として、組織そのものを、どうするのかといったことを決めてもらわないといけないと思う。

(委員) その問題は来年4月から始まるのでまもなくの話であるが、ある程度方向性を決めていただかないと私たちとしても動けないと思う。松川地区連合会としても色々な町内会が入っているのでお願いしたい。

(会長) 個人的には一中と統合になるから続けるということはないと思う。

(委員) それから松川地区連合会としてもこれから予算化しないといけないと思う。町内会長へお知らせするためにも、予算の事は方向性を決めて頂かないと我々は動けない。

(会長) 山上地区は地区委員会、松川地区は連合会、東部地区は日の出町内会、万世町町内会の三団体から教育後援会会長に対応を決めて欲しいと要望したい。

(事務局) 毎年毎年、町内でいただいて、教育後援会に上げていただいている会費があるということは、今お聞きした通りだと思う。前回会議録にあった、統合後にどのような教育後援会を作るのか、作らないのかというところは統合後の話になるため、前回も申し上げた統合準備委員会内で、統合してからではなくその前の検討段階で話をさせていただく予定である。この地元代表者協議会が終了した後、統合準備委員会を立ち上げさせてもらい、その中で教育後援会を持つのか持たないのかというところを議論していただくということになる。そして、来年度の後援会会費については、先ほど会長から御意見いただいた通り、現在、教育後援会にあるお金や五中教育後援会をどのように閉じていくかということも含めて、今の教育後援会の体制の中で、議論いただいております。お決めいただくことになると思う。

(会長) 他にいかがか。なければ前回会議録については御承認いただくということでよろしいか。それでは、次に「②統合に向けての意見について」について説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

(会長) それでは資料をご覧になって、別の意見や提言等があれば出して頂きたい。

(委員) この資料にも書いているが、関根小と松川小で統合した際、内履きは関根小のものにしたという話が出ているが、同じように今回の統合で制服やジャージ、それから内履きはどのようなものになるのか。例えば、一中に全て一緒に合わせるのか、それとも全然違うものに変えて七中と統合した時のために違うものをそろえるというようなことがあるのか教えていただきたい。

(会長) 現在どのように進んでいるか教えてほしい。

(事務局) まず、制服について説明をさせていただく。先日、来年入学される小学校6年生のお子さんの保護者を対象に説明会が開催された。その中で、来年入学のお子さんたちから一中の制服を着ていただくということを説明させていただき、一中の制服を注文していただいた。そのような形で来年の4月からは一中の制服を着ていただくということになる。五中においては、令和5年度の1年生は一中の制服を着用し、2年生3年生は現行の五中の制服を着用することになり、統合の年に一斉に揃えるというやり方も全国的には無くはないが、それまで着ていた制服を無しにして3年間のうちに2回制服を買わなければいけないということが出てきてしまう可能性があるので、統合前から順次、統合後の学校の制服を着ていただき、1回購入すれば済むような形で進めていく。これから統合が進む他の中学校でも同じ様な考え方で、統合前の2年前ぐらいから統合後の学校の制服を着用するという形で進めていく予定である。内履きや運動着に関しては、後ほど校長先生から情報提供していただくこととし、もう一つ補足させていただきたい。一中と五中が今回統合するが、令和11年度に(仮称)東中という形で最終的には統合をする予定である。その際には、新しい制服をとということで統合中学校の制服を着ていただく想定をしている。令和11年度が統合の年であるため、2年前の令和9年度の一中と七中の新入生から新しい制服を着ていただく、令和11年度には1年生から3年生まで全員新しい制服に揃うというイメージで考えている。令和8年度に統合予定の中学校についても、2年前ということで、令和6年度に入学される方から順次新しい制服を着用していただけるように検討している。

(委員) 運動着については、令和5年度から一中の青いジャージを新1年生は購入するということになった。一中のジャージはズボンに校章がプリントされているが、校章は無しで着るという形である。カバンについても、一中で現在使用している通学カバンを購入する。カバンにも校章がついているが、取り外しができるということで最初は五中の校章をつけて使用し、一中と統合になった場合には一中のものを差し込んで使うという形になる。内履きについても一中のものになるが、形はほとんど変わらない。

(委員) 気になったのが五中の制服リサイクルについてである。制服のリサイクルを母親委員会でやっているが、3つの学校を統合した場合の制服は、五中の子供たちは五中のものを持っていて、一中のものも持っていて、かつ統合中学校のものも持つとなると、3つ揃えなければいけなくなる。兄弟の場合であるが、一人が揃えるのではなくて、3人兄弟であればお兄ちゃんのを弟が使える。ただ、お兄ちゃんのを使えると思っていたが、使えなくなるという状態が起きてくるのでそこをお聞きしたい。もし1回で済むのであれば、おさがりができるので1回で済むのかなと思った。

(事務局) 確かに制服を一斉にリニューアルするとなった場合には、必ず、おさがりあるいはリサイクルという問題は起きる。今回、予定としては統合を見据え、統合の年に揃うような形でということで、新入生の方には、お兄さんやお姉さんがいたとしても、統合後の学校の制服を着ていただくこととする予定である。なお、最終的に3つの統合中学校になった時に着ていただく制服については、現在、各中学校のPTAの代表の方々や教職員で構成する、制服検討委員会を立ち上げ、検討を進めている。第4回目の会議を終えたところで、現時点で方向性として、市内の最終的な統合中学校の制服を統一制服として、同じ仕様の制服にしようという方向で進めている。そうなった場合、学校が違ってても着回しができたり、親戚のお子さんが、例えば、北中と東中にいた場合でもリサイクルが可能になる。統合に合わせてと考えているため、令和8年度統合の中学校と令和11年度統合の中学校から、その制服を着るといようなスケジュールになると考えている。最終形としては、そのような形で今よりも融通性のある制服になると考えている。ただ、学校ごとの特徴が全く無くなるのではなく同じ統一制服ではあるが学校ごとに見て、どの学校だと分かるような区別をしっかりとつけるような形で考えている。来年にはプロポーザル方式により、制服事業者の方々に提案していただきながらこういうデザイン、制服がいいかということを検討していく予定である。

(委員) ちなみに今年五中へ進学する子ども達のなかで、兄弟がいてそのおさがりを着ようと思っていたのに、一中の制服を購入しなければいけなくなった。保管してあったものもなく、誰かからもらう予定だったのに、新規に買わなければいけなくなったという方で何か相談があった方はいるか。

(事務局) 特段、相談等は受けていない。

(委員) だとすると、すべての方が来年度から一中の制服着るということを承諾して購入するということか。ちなみに南原中から二中に行くときもそのようなことは起きなかったのか。

(事務局) 南原中と二中の統合に関しては、決定時期が少しぎりぎりだった。

(委員) 市で購入したんでしたね。

(事務局) 一つの学年は間に合わなかった。統合時に2年生になる学年は、南原小学校での卒業式の時には二中の制服を着て卒業して、南原中に二中の制服で入学をした。その学年は間に合ったが、その一つ上の学年は統合決定というところと制服購入の時期がずれてしまった。

(会長) 他にないか。なければ帰られてからまた自分で検討していただいて、あれば教育委員会の方に話してほしい。続いて「通学方法について」はいかがか。

(委員) 自転車通学についてである。現在、五中はどこからでも自転車通学である。一中の場合だと部活が無い日は徒歩である。部活がある日は自転車でいいという

話だと思うが、統合になった場合には距離的にだいぶ遠い所も出てくると思う。その辺どの様になるのかということをお聞きしたい。

(会 長) 教育委員会として、基本的にどのような考えでいるのか。

(事務局) 2つの学校が統合するので、学区がかなり広がるのは間違いない。統合を進めるに当たっては、統合後の全体の学区について、どこまでが遠距離、どこまでがスクールバスかといった線引を新たに行うことを予定している。今後、統合準備委員会の中で通学に関する検討を行っていく。部会形式で様々なテーマを分担していただき、検討していくことを予定している。通学方法についても大きなテーマとして協議していただく。そのときに、例えば、申請があれば全員自転車通学OKだという学校同士が統合になればそのままでもいいという話にもなると思うが、異なっていれば、どちらに合わせるのかそれとも改めて一から検討し直すのか、一から検討していただくのが順序としてはいいのではないかと思っているが、ゼロベースでどこからが遠距離か、スクールバスかということを設定していただく。皆さんが懸念されるところは解消しながら検討いただくということを予定している。現時点では進め方は今申し上げた通りだが、実際にどのような線引きにしていくかということはその場で議論していただく予定である。

(会 長) 一般的には距離感と季節感、両方を考慮し充分検討して頂きたい。

(委 員) 今回「通学方法について」と題目が設定されているのはなぜかお聞きしたいのと、そのテーマでどういったことが知りたかったのかをお聞きしたい。関根小と松川小が統合した時に、会議の中で通学ということがやはり出て、当初会議の中でもある程度仕上げようということはなく、どうするんだというところから会議に入った。そもそも山上地区の中でもバラバラに子供たちは通学していて、関根小時代からもタクシー通学の地域があったこともあり、スクールバスは駄目であると、全部の子供たちを1つのバスで拾うのは難しいということがあった。結果的にはデマンドタクシーということになった。中学校になると距離も遠くなり、山上地区だけでも子供の住んでいる場所がバラバラでどこに集中させるのかというところがあると思う。関根小の子ども達は、今は家の前まで迎えが来るような感じで歩くこともないが、それに対しての不安は結構多く、会議の中でも保護者の中では少し運動させたい、歩かせて欲しいという方もいた。今、コミセンに歩いてきてそこからジャンボタクシーで行くという子供は5名ほどいるが、他の20数名はほぼ家の前まで来てくれるという感じである。中学校がどうなるのかは、おそらく来年の準備委員会にはっきりした提案があるのだと思うが、関根小と松川小との統合の時はこのような流れだった。それから、現在の南原地区の子ども達が二中に行っている現状がどうなっているのか教えてほしい。見た感じだと、コミセンに集まったり、森林組合に自転車で

行ったりしているようだ。あとは笹野一刀彫のあたりだと思うが、どのような通学をしているのか。

(事務局) 南原地区の二中の子ども達については、登校時については3ヶ所の乗車場所、南原コミセン、南原小学校、森林組合をお借りしている。そこに子ども達は自転車もしくは徒歩で集合し時間で出発している。関地区はジャンボタクシーを利用し、白布地区から何ヶ所か乗車場所を設定して、そこまでは徒歩又は自転車で集まっている。下校時については早い便と遅い便の二つに分けている。部活動の関係や3年生は早い時期に部活が終わり帰宅時間も早くなるため、そこは時間を分けて運行している。登校時とは違い、下校時は降車場所を少し多く設定して、そこから同じく徒歩もしくは自転車で帰るという状況である。

(事務局) 補足だが、今回テーマとして通学方法について提示した趣旨についてだが、一律に、例えばスクールバスに一番遠い方も一番学校に近い方もみんな乗ってくださいと言っても、歩かせたいという話も出る。現実出ている状況があるかと思うが、中学校では部活動があるので小学校より子ども達の行動範囲が広がる。学校ではないところで部活動する時に自転車が必要になり、自転車が使えない時期は冬だけでもスクールバスに乗って登下校できるのか、そのようなところも出していただいて、配慮すべきという意見を頂戴できれば、それも踏まえて統合準備委員会での議論が進んでいく。この地元代表者協議会で、意見として頂戴したものについて、今後の統合準備委員会をスタートさせる際、それを踏まえた上で、議論していただくというイメージになる。学区が広がることによって一番懸念される方が多いと思われる通学については特に意見をいただきたいと思って、テーマにさせていただいた。

(委員) ここにいる地区の方々が、今お聞きしてどんなご意見があるのかをお聞きしたいと思う。正直、実際の統合に係る保護者がいないところの会議であるため、どうなのかとすごく疑問に感じた。

(事務局) 実際、地区の方の目線で、現在の保護者の方々もいらっしゃるので、例えば地区で登校時あるいは下校時にバスの乗降場所があったとして、このような場所、人目がある場所で乗降した方がいいのではないかなど、様々視点はあるかと思う。もしスクールバスだったらこんなところを注意したほうがいいのかというところをお出しいただければと思う。

(委員) 片子地区は下花沢と東大通に隣接しているが、下花沢や東大通の一中の生徒が実際何で通学をしているのか、徒歩なのかそれとも自転車なのかお聞きしたい。それから、部活動がある人は例えば自転車で通学しているのか状況を教えてください。前回の会議の時に国の基準で6kmという話があったが、これは自転車で行く場合の距離なのかというところが分からなかった。片子地区を見ると、直線で測った時に近いところで2.5kmぐらい、遠いところだと3.5

k mぐらいかと思う。現状、下花沢や東大通は通っているので分かれば教えていただきたい。

(事務局) 一中は基本的に徒歩通学になっていると思う。部活の時にどのような自転車の使い方をしてるかについては詳細を承知していないため、少し時間を頂戴して確認をさせていただきたい。

(委員) 通学路について確認だが、どこからバスやタクシーになって、どこから徒歩もしくは自転車になるのかについてはこれから決まるということだが、まず通町方面から一中に向かうとなると3通りあるのかなと思う。現在はどこを通って良い、通って悪いというのはあるのか。通町8丁目付近の一中生がどこを通って良い、どこを通って悪いというのは決まっているのか。心配しているのは、河川敷は夜に電灯が無く非常に暗いので、あそこを生徒が通っているとすれば非常に危ないのではないかと感じている。サクサの前のところも道路幅も狭まって、冬になるとすり鉢状になり、歩道を歩くこともかなり厳しいということもあるため、そういったところやもしくは堤防の方ももちろん危ないということもあるので、安全な通学の確保について今後どのように考えていくのかというところが心配である。

(事務局) 基本的には通学路を指定しているのは小学校であって、中学生は詳しいところまで指定を行っておらず、それぞれ安全に注意して登校している状態だと思う。お話があった河川敷あたりについての一中の約束事については確認したい。小学生の場合は通学路の安全点検ということで登校班が決まっていて、その登校班はどこをどう通って学校に来る、帰りもどこを通って帰るというのは詳しく決まっており、子ども達の会話の中で「通学路じゃないところ通ってたよ」という報告をよく受けていた。通学路を指定してその安全確認を行い、例えば危険だからここに横断歩道を持ってきて欲しいとか、ここの速度を少し制限してほしいというのも、毎年警察や道路管理の方と一緒に点検をしている状態だ。そこには中学校は関わっていない。

(委員) 関根地区の子供でデマンドタクシーを利用して松川小に来ている児童がいる。このデマンドタクシーを利用して、中学生と一緒に小学生が通学することは考えているのか。もう一点だが、先ほどの山上地区委員会の意見書の中で、奥羽本線の2つの駅のノンストップ化についてということで、冬シーズンもローカル線は関根駅に止まる。電車通学をする可能性があるのかないのかということも伺いたい。その場合、関根駅から乗ることになる子供も結構いるように思うが、安全上や集まりがどうなのかという部分もあると思う。バスで行くよりもいいのかなという思いもある。また、自分の住んでいるところもだが道幅が狭いところがあり、上の方で食用牛を飼っている業者のトラックとデマンドタクシーやスクールバスのすれ違いが生じると、なかなか交通の譲り合いもしなければ

- いけないかなと思う。そういう事業者、企業との打ち合わせ云々というのも、教育委員会で考えていただけるのかどうかということも含めてお聞きしたい。
- (事務局) まず、現在小学生はデマンドタクシーではなくジャンボタクシーを使っている。最初の年は市のデマンドタクシーも使っていたが、やはり公共交通としてのデマンド交通はなかなか子供たちの登下校に合わせて、使用することが厳しいところがあり、今は借上げタクシーになっている。公共交通があればそれを使っていくというのが前提ではあるが、1年利用してなかなか厳しいということで今は公共交通ではなく借り上げのジャンボタクシーを利用している。同じように公共交通として、例えばバスや鉄道があれば、それを使えないかという検討はしていただくことになる。公共交通として使えるものが無いという場合にはスクールバスや借り上げのジャンボタクシーといった手段で、スクールバスを運行するということを検討していく手順だ。これから統合を進めるにあたって御懸念の通り、小学校のスクールバス中学校のスクールバス、事業者の車両などが錯綜するのではないかという懸念も確かにあるかと思う。ただ実際にスクールバスの運行経路を検討していく中で、同じ時間帯に大渋滞を起こすとか、あるいは危険を伴うかもしれないというところは、その経路を決めて行くときに、丁寧に、危険箇所を通らないように、渋滞に巻き込まれないようにというところを検証しながら、経路を決めていくことになる。
- (事務局) 先ほどの質問について、お答えします。一中は基本的に徒歩通学ということだが、吾妻町と八木橋に限っては、部活の時、しかも夏場の部活がある日に限って自転車を認めている。部活の無い日は徒歩となるという話であった。それから、通学路を設定しているかということに関しては、通学路は設定していない。以前は通学路について、ここを最終的には通って来るようにと指導された記憶があるが、その通学路に出るために、ちょっと遠回りになってしまう子供が出てくるということから、一中では通学路の設定はやめたという経緯がある。通学する際に河川敷を通ることを禁止しているかについては、特に学校では禁止はしていないとのことである。現状で河川敷を通っている生徒はいないということだった。特に学校で通らないように指導していることはないが、部活も終わると暗いので、わざわざ降りて行くよりはまっすぐ帰っているようだということがあった。
- (会 長) タクシーで通学する、あるいは現在、山上、板谷、広幡、田沢で乗り合いタクシーがあるが、おそらく中学校の通学とバッティングする時間がある。乗り合いタクシーの事業者がそれぞれ5社、この台数を同じ時間に移動できるかということが懸念される。朝の乗り合いタクシーは板谷でも関根でも人数が多い時はジャンボタクシーで、4人であれば小型タクシーだ。そのあたりがチャーターできるか。一中がスタートした時に物理的にできるのか、この辺は早めに確

認したほうがいい。

(事務局) これからスクールバスやジャンボタクシーも含めて、一斉に各統合中学校で運行するということになれば、車両も心配ではあるが、ドライバー不足について問題になっている。

そのため、業者によっては車両を減らしているということも聞いている。コロナの影響もあると思うが、ジャンボタクシーの車両であればハイヤー協議会と随時情報交換している。例えば来年、三沢西部小と三沢東部小が統合するが、そこで車両が可能なのかということは調整し確認もしている。同じように御心配のところは、情報交換して可能かどうかということを探りながら、車両が足りない、ドライバーが足りないということがないように準備はしていきたいと考えている。

(会 長) ちなみに乗り合いタクシーは1ヶ月に1社ごとのローテーションで運行している。今月と、翌月は違う会社が1か月ごとに担当会社が交代しているようである。では、山上地区の地区委員会から意見書が提出されている。大泉委員から説明をお願いします。

《 意見書の読み上げ 》

(会 長) これは山上地区委員会としての意見書だ。トータル的には、五中の統廃合には関係することだと思っているので、この点について今回山上地区委員会としての総意で提出した。これは、教育委員会へ提出になるのか。教育委員会が関係する部分だけではない。教育長と米沢市長への文書だと思うので、一応、検討する。これは意見書案ということでよろしくお願いしたい。その他、言い忘れたことや言っておきたいことなど、皆さんから御意見を賜りたい。松川地区からございませんか。

(委 員) 部活をしている子供と、しない子供がいると思うが、その場合の通学方法についてどのように考えているか。遠距離の子供もいるし、学校から近い子供もいると思う。

(会 長) 第1回目であった高畠の統合中学校がどうなっているかもお願いしたい。スクールバスが4台ある。恐らく、部活もちゃんとスクールバスで送迎しているはずだ。

(事務局) 現在二中でもそうだが、例えばスクールバスを利用する子で、部活がある子、無い子がいる。あとは3年生も夏の大会が終わると部活を引退して、受験へまっしぐらになるが、学校の授業が終わって部活がない子については、まず第1便としてバスが出てそれに乗って帰る。部活動が終わり、また夕方の時間になった時には、第2便ということでバスが出発する。利用する子は早い便と遅い便どちらかに乗れるような仕組みをとっている。

(委 員) 部活の時間もあると思うが、遅くなる場合もあると思う。6時、7時とか8時

という場合もあるのではないかと思います。どのようなことになっているか。

(事務局) 現在、部活動のガイドラインというものを作っていて、平日は2時間と決めている。例えば、大会直前でどうしても延長しなければいけないという時には、保護者の方と相談をした上で活動延長になるが、基本的には平日は2時間以内で終わり、冬場となるともっと短い。今だと5時45分ぐらいで下校している。大体1時間半ぐらいで活動を終了している。終わりの時間が決まっているので、バスに乗り遅れるというようなことはないように学校でも調整を行い、確実に下校できるようにしている。

(委員) 準備委員会の人選は、統合される学校の保護者の方々も含めるような形の人選になるのか。

(事務局) 統合準備委員会も地区の代表の方、PTAの代表の方と、あとは同窓会や後援会の代表の方に御参加いただきたいと考えている。地元代表者協議会と基本的に同じような構成を考えている。部会等に分かれてテーマごとに様々議論していただく。統合した時の部活動をどうするか、種目をどうするかということもテーマで、あと同窓会を作るか作らないかというところもある。そういったところ、PTA組織を新たに立ち上げるとなったときに、形をどうするか。今回の一中と五中の場合は、一中の組織がある部分は、その中にどういう形で、合わせるかというところは議論していただくことになるが、新たに作るものがあれば、それについても検討していただくため、地区の方、PTAの方、そして同窓会や後援会の方々に、同じように統合準備委員会にも入っていただくことを想定している。PTAの方は当然役員が入れ替わることがあると思う。次の学年の保護者の方にバトンを渡していただいて、継続して統合に向けた議論にお力をお借りしたいと考えている。

(委員) なぜ聞いたのかと言うと、先ほど通学のところで、ここにいる方でも例えば6年生5年生の保護者はもちろん、このような議論に参加する場面が多分あると思う。実際、私の子供は統合後の通学になるため、今決めようというタイミングにその当事者たちがいた方がいいのではないかな。より生の意見が入るかなと思った。そういった形など人選を考慮していただけるとありがたいと思う。

(事務局) 地元代表者協議会の後に立ち上げることになる統合準備委員会で、小学校のPTAの方、そして校長といった教職員も、一緒に議論していただくということを予定しています。

(会長) 他に質問はいかがか。では、無ければ以上で協議終了とする。

(事務局) 次回の日程についてだが、令和5年1月17日火曜日18時30分で設定させていただければと考えている。改めて書面でお知らせする。

以上で第2回第五中学校区地元代表者協議会を終了します。